

有機農業の普及拡大に向けた地域連携プラットフォームの構築

(自治体等側) 茨城県農林水産部農業技術課・課長

鈴木 亮司

(大学側) 茨城大学農学部・教授

小松崎 将一

連携先

茨城県

プロジェクト参加者

小松崎将一（茨城大学農学部、教授、とりまとめ）

寺門範雄 茨城県農林水産部、課長補佐、公開シンポジウム実施）

藤田覚史（茨城県農林水産部、技師、公開シンポジウム実施）

プロジェクトの実施概要

① プロジェクトの目的

農林水産省は「みどりの食料システム戦略」を掲げ、SDGs に合わせた有機農産物生産の推進を目指している。この中で、2050 年までに有機農業の割合を 0.5%から 25%に増やすという目標を設定し、農薬の使用を 50%削減することも掲げている。このために、茨城大学と茨城県が連携し、有機農業の現状と将来像を共有し、協働するプラットフォームを作り上げる。今年度は、農業改良普及員を含めた農業関係者向けに公開シンポジウムを行い、県内の有機農業の指導体制を強化することを支援する。また、研修内容を学外にも積極的に公開することで、市町村の有機農業担当者、県内の流通販売担当者、消費者が持続可能な地域農業について理解を深め、新しい地域農業の普及拡大の機運を高める。

② 連携の方法及び具体的な活動計画

茨城県は、有機農業推進法に基づいて、平成 21 年から茨城県有機農業推進計画を立てた。茨城大学や有機農業を実践する団体と連携して、有機農業技術を体系化し、普及させ

てきた。特に、「いばらき有機農業技術研究会」では、有機農家を中心に技術交流を行っており、茨城大学や茨城県が重要な役割を担っている。これらの連携を踏まえて、本プロジェクトでは、茨城県の有機農業の推進に関する具体的な施策を展開するため、茨城大学の研究成果や人材育成機能を活用し、国の「みどりの食料システム戦略」の推進に貢献する。

茨城県は、職員を有機農業普及技術研修会に派遣する。これにより、有機農業の指導体制を強化することを目指す。

茨城大学は、研究機関、有機農業者あるいは JA などの地域農業団体などを講師として迎え、対面またはオンラインで公開シンポジウムを策定し、実施する。シンポジウム内容は、有機農業の研究開発の最前線、有機農業の成功事例および地域への取り組みの拡大について紹介する。とくに有機水稻、有機ブドウ、学校給食への供給などを取り上げる。成功している経営体の流通事例や販売事例も含めて、実践的な現場で農家指導に使えるような情報を提供することが目的である。

③期待される成果

有機生産農家をはじめとして国や県の農業研究機関の研究・技術者、大学や専門学校の研究・技術者などの既存の取り組みの成果を対象として、茨城県内の普及員向けに報告することで、有機農業技術について地域への浸透を図りたい。研修の内容については、有機栽培

技術について科学的見地から妥当性について詳述することで、技術理解を深める。また、共通技術と経営毎に異なる個別技術といった枠組みを理解し、有機栽培技術の体系化を示

唆するものとなるよう努める。これにより、茨城県が全国に先駆けて有機農業の普及拡大に取り組む連携体制を作り上げる。また、この成果報告において市町村の有機農業担当者や、県内の流通販売の担い手や有機農産物の消費者にも参加いただけるよう対応することで、有機農業の地域展開を図る。

プロジェクトの実施成果

① 活動実績

国はみどりの食料システム戦略の中で2050年までに耕地面積に占める有機農業の取組面積を100万haまで拡大することとした。また、令和2年4月に農林水産省が定めた「有機農業の推進に関する基本的な方針」の中で、有機JAS認証の取得については、農業者の判断によることを前提としつつ、取引先のニーズ等を踏まえ、必要に応じ有機JAS認証を容易に取得できる環境づくりに努める、としている。県では令和3年3月に策定した「茨城県協同農業普及事業の実施に関する方針」において、重点的に取り組むべき課題の1つとして、有機農産物等の需要の伸びが期待できる品目の作付拡大の積極的な支援を掲げている。こうした状況を踏まえ、このたび茨城大学との連携のもと、農業改良普及指導員の有機農業に関する指導力の向上を加速することを目的とした研修を開催している。有機農業推進に関する公開シンポジウムを、以下のとおり実施した。



図 案内用ポスター

公開シンポジウム

有機農業の普及拡大に向けた地域連携プラットフォームの構築

ねらい：茨城県では、環境を保全し、地域の活性化につながる有機農業の展開を支援しています。このシンポジウムでは、農研機構のいままでの有機農業研究の内容をお聞きし、また地域の先進事例や地域農業団体でのとりくみなどをご報告いただき、茨城県の有機農



写真1 三浦氏の講演

業の展開について意見交換させていただきたいと思います。

日時：2月20日(月) 午後1時半から午後4時半

場所：茨城大学水戸駅南サテライトキャンパス及びteams online

現地参加およびオンライン参加者：44名



写真2 赤須氏の講演

内容：

13：30 開会

13：30 ごあいさつ 茨城県農林水産部農業技術課・課長・鈴木亮司

13：35 趣旨説明 小松崎将一

13：40 基調講演

「中日本農業研究センターにおける有機栽培技術の開発状況」

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 中日本農業研究センター

温暖地野菜研究領域 有機・環境保全型栽培グループ 三浦重典氏

14：30 「有機水稻と有機ブドウの取り組み」
あすか農園 赤須順氏

15：00 休憩

15：10 「JA常陸大宮での取り組み」

いばらき有機農業技術研究会 松岡尚孝氏



写真3 松岡氏の講演

15：40 意見交換

16：30 閉会あいさつ

寺門範雄 茨城県農林水産部課長補佐、
参加者 40名

② プロジェクトの達成状況

茨城県の有機農業の歴史は古く、やさと農協を中心とした産直と有機農業のスタートは1976年ごろからであり、東京の東都生協に鶏卵生産者が卵を届けたことから始まった。東都生協は、卵、肉、米、野菜といった単品の取引は地域農業を破壊すると考えて「地域総合産直」を提案し、現在では鶏卵、野菜、果実、米、納豆と総合的な産直に発展している。やさと農協を中心とした新規就農研修などによる有機農業の担い手の育成も盛んにおこなわれ、これらに触発された多数の取り組みが県内に広がっている。

一方で、首都圏などの大消費地向けの農業法人や農企業を中心とした有機農業生産の拡大の方向も盛んである。茨城県では、付加価値の高い有機農産物を生産し、経営拡大にチャレンジする生産者等を対象に、有機農業モデル団地の整備を支援するとともに、モデル団地を拠点として有機農産物等による付加価値向上の取組を拡大する取り組みであるオーガニックステップアップ事業の取り組みを行っている。



写真4 意見交換会の様子

本プロジェクトでは、「みどりの食料システム戦略」の公表を踏まえ、よりよいいばらきの有機農業の展開について議論を重ねてきた。ここでは、いままで茨城県の有機農業をリードしてきた、地域に根差した取り組みを大切に生かしつつ、新規就農や農企業の参画などによりその生産力を拡大することで、有機農業のもつ公共的機能を高めながら普及拡大していく方向性をめざすことを確認できた。

③ 今後の計画と課題

茨城県の有機農業の取り組みについて、スケールの大小および市場との連携の多様性を意識しながら、地域の持続性が真に向上する有機農業の地域展開の方向性の議論を深め、大学と県行政との連携を深めていきたい。